

◇ 節約したのに電気料金アップの訳 ◇

「年明け1月の電気料金が、昨年1月に比べてかなり高くなった」といった内容のご意見やお問い合わせが、お施主様より多くありました。

北海道内にお住まいの方ですが、今年1月の電気料金の請求が 39,489 円、昨年1月の電気料金は 35,359 円で 4,130 円高くなったようです。

しかも1月は正月、加えてコロナ禍の影響で在宅時間が長くなることから家族どうしが意識して節電していました。

電気料金等内訳書を調べると使用電力量は、今年が 1,543 kWh、昨年在 1,631 kWh と、昨年より使った電力量が少なく、節約は成功していました。

それにも関わらず、電気料金が高くなった理由は「燃料費調整額」です。

今年1月分の燃料費調整額を見ると 92 円 58 銭が加算されていますが、昨年1月分の燃料費調整額は -5,529 円になっていました。

燃料費調整額は、月ごとに単価が変動し、「単価×使用電力量合計の金額」が加算される場合や差し引かれる場合があります。

昨年1月の単価は -3 円 39 銭であり、この単価が今年1月だったとすると、

$$-3 \text{ 円 } 39 \text{ 銭} \times 1,543 \text{ kWh} = 5,230 \text{ 円 } 77 \text{ 銭}$$

となり、約 5,230 円が差し引かれることとなります。

電力会社の電力メニューで異なりますが、大まかには実際の電気使用量による電気料金以外の変動で支払金額が変わってきます。

◇ 電気料金の仕組み ◇

光熱費の一つである電気料金請求は、電力会社からのその請求金額明細をよく見ることなく、お支払いしている方も多いようです。その理由として、請求明細書を見ても、よく分からないという方も少なくないからでしょう。

〈電気料金の仕組み〉

電気料金は、基本料金、電力量料金、燃料費調整額、再生可能エネルギー発電促進賦課金で構成されています。それぞれの内容をご説明します。

■基本料金

電力会社が、契約プランごとに設定している「固定料金」です。電気を全く使っていないなくても基本料金は必ず支払う必要があります。これが「固定料金」と云われるものです。

■電力量料金

これは使用した電力量に応じて発生する料金です。電力会社や契約メニューによって、1 kWh 当たりの電力量料金単価や、使用した時間帯によって料金単価が異なります。

■燃料費調整額

火力発電では、原油、LNG（液化天然ガス）、石炭などの燃料を仕入れる費用が発生し、その仕入れ値にあわせて月ごとに変動します。

その価格変動を電気料金に反映させるため、過去3カ月間の燃料価格の平均を計算して調整した額が、「燃料費調整額」です。

燃料費調整額は、月々の燃料費調整単価にその月の使用電力量をかけて計算されます。各電力会社は毎月、2カ月前の燃料調整単価を計算して発表しています。燃料費調整額は、燃料価格が上昇したときには電気料金に加算され、燃料価格が低下したときには電気料金から差し引かれます。

なお、電力会社によつての燃料費調整額の差は殆どありません。

■再生可能エネルギー発電促進賦課金

再生可能エネルギー発電促進賦課金とは、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度※」によって電力会社等が買い取りに要した費用を、電気のご使用量に応じ、電気料金の一部としてお客様にご負担頂くものです。

再生可能エネルギー発電促進賦課金単価は、毎年度、経済産業大臣により定められ、毎年5月分から翌年の4月分の電気料金に適用されます。

※「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」とは、再生可能エネルギー（太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等）により発電された電気を、一定期間・固定価格で電力会社等が買い取ることを義務付けるもので、平成 24 年 7 月 1 日から開始された制度です。

◇ 電気料金アップには様々な要因が ◇

電気料金は、家電製品や照明器具、冷暖房器・給湯器・調理機器と私達のライフスタイルに欠かせない電化製品の使用料金です。

電気料金が高くなった場合、今回ご紹介したような燃料費調整額の差額による要因もあります。

お使いになっている家電製品や外気温の影響によるヒートポンプ機器（エアコン・エコキュート等）等、原因には様々なものがあります。

電気料金アップは、家計への負担も大きくなります。極端に電気料金が高額で請求された場合等は、機材関連の不具合が発生している場合もあります。

気になる点がある場合は、施工工務店や電力会社にご相談やお問い合わせをすることをお勧めいたします。

（著：業務企画部 柳田貴志）